

## 平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 昭和小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

平成29年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

第4学年 国語 57人 算数 57人 理科 57人

第5学年 国語 人 算数 人 理科 人

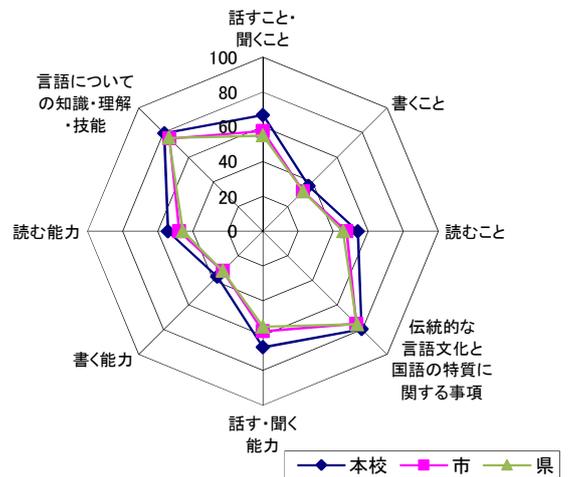
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立 昭和小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	66.7	57.5	54.9
	書くこと	36.8	32.3	32.3
	読むこと	54.1	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.5	75.3	75.8
観点	話す・聞く能力	66.7	57.5	54.9
	書く能力	36.8	32.3	32.3
	読む能力	54.1	47.7	45.7
	言語についての知識・理解・技能	79.5	75.3	75.8



## ★指導の工夫と改善

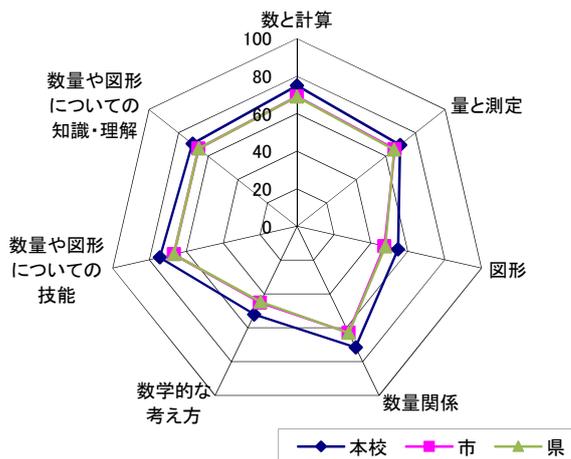
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○平均正答率は66.7%で市の平均を9ポイント以上上回っている。</p> <p>○設問別に見ると、「話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する」は、市の平均正答率を15ポイント上回っている。</p> <p>●「話し合いの中心に気を付けて聞き、自分の意見を述べる」は市の平均正答率を2ポイント上回っているものの、正答率が29.8%と高くはない。</p>	<p>・日常の学校生活の中で、相手の言いたいこと(話の中心)は何かを意識して聞いて意見を述べたり、進行に沿った話し合いをしたりするようにさせる。また、話の内容をしっかりとらえ集中して最後まで考えながら聞く習慣をつける。</p>
書くこと	<p>○平均正答率は36.8%で市の平均を4ポイント以上上回っている。</p> <p>○設問別に見ると、「メモを基に、報告レポートに記述する内容を考えて書く」は50.9%と市の平均正答率を12ポイント以上上回っている。</p> <p>●「メモや友だちの意見を基に、報告レポートのまとめを書く」は、正答率が5.3%と市の平均正答率を若干下回っており、十分身に付いていると言えない。</p>	<p>・日常生活の中からテーマを設け、ポイントとなる言葉を入れて文章を作ったり、文章の量を決めて文章を書いたりする活動を多く取り入れ、制限された条件の中での自分の考えを表現する力を身に付けられるよう工夫する。</p>
読むこと	<p>○平均正答率は54.1%で、市の平均を9ポイント以上上回っている。</p> <p>○「段落相互の関係をとらえて読む」「登場人物同士の関係や物語上での役割を捉える」などは市の平均正答率を10ポイント以上上回っている。</p> <p>●「文章を読んで考え、まとめたことを発表し合う」では、正答率が45.6%で、県の平均は上回っているが、市の平均を2ポイント下回っているため、十分定着していない。</p>	<p>・授業では、指示語や文脈に気を付けて読む指導を今後も続けていき、読解の手掛かりになるような語句を自分で見つけられるようにさせる。</p> <p>・読書が苦手な児童がいるので、ブックトークや読み聞かせなどを通して読書を啓発し、読書量を増やしていけるように指導していく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○平均正答率は79.5%で、市の平均を4ポイント上回っている。</p> <p>○「日常使われている簡単な単語のローマ字による書き方」は正答率が71.9%と市の平均を18ポイント以上上回っており、身に付いてきているといえる。</p> <p>●漢字の読み書きでは、90%以上の人が正解している問題もあれば、「市場」や「交通」は正答率が6割弱と低かった問題もあるので、文字によって定着に差がある。</p>	<p>・漢字の定着には個人差があるので、漢字練習の習慣をつけるとともに、日常の文章の中で学習した漢字を使うよう指導する。</p> <p>・ローマ字練習帳やプリントなどで身に付いてきたローマ字だが、今後もローマ字の練習を継続したり、表を掲示するなど、日常的に見られるようにし、ローマ字にふれる場を増やす。</p> <p>・授業の中で、国語辞典を使って意味調べをする学習を取り入れ、使い方を復習しながら定着を図る。</p>

# 宇都宮市立 昭和小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.0	69.2	69.1
	量と測定	69.7	66.1	65.6
	図形	54.8	47.4	48.0
	数量関係	71.5	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	52.1	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	74.4	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	70.6	66.6	66.5



## ★指導の工夫と改善

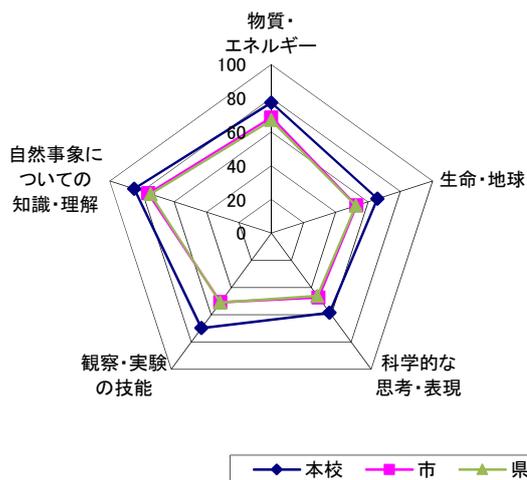
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○平均正答率は75.0%で市の平均を6ポイント上回っている。</p> <p>○「整数－小数＝小数」は正答率が91.2%で「あまりのある除法の計算の答えを確かめる」は正答率は77.2%とどちらも市の平均を10ポイント以上上回っており、身に付いていると言える。</p> <p>●「3位数×2位数＝5位数」は市の平均正答率は上回っている内容だが、正答率が57.9%と6割弱なので、まだ十分定着していない。</p>	<p>・さらなる習熟を目指し、プリントやドリル等を活用して繰り返し復習することにより、定着を図る。</p> <p>・かけ算やわり算などの計算力に正確さと速さが十分身に付いていないので、小テストやステップアップシートなどを活用して、正確に計算できる力を身に付けさせる。</p> <p>・計算力に個人差が見られるので、四則計算など算数の基礎基本となる力は、習熟度別学習などを学習形態を工夫して、定着を図る。</p>
量と測定	<p>○平均正答率は69.7%で市の平均を4ポイント以上上回っている。</p> <p>○設問別にみると「物のおよそ重さを読み取る」では正答率が73.7%で市の平均を12ポイントも上回っている。</p> <p>●「分と秒の単位であらわされた時間を秒の単位に換算する」は市の平均正答率を5ポイント下回っており、73.7%と低くはないが、十分定着しているとは言えない。</p>	<p>・日常生活の中で、時刻と時間の概念を十分身に付けられるように、意図的に声かけをすると共に、時間の単位換算の問題を繰り返し行うなどして、習熟を図る。</p>
図形	<p>平均正答率は54.8%で市の平均を6ポイント以上上回っている。</p> <p>○設問別にみると「演習場の点を通る直径を定規を使って作図する」では正答率が80.7%と市の平均を15ポイント以上上回っている。</p> <p>●「円を利用してかいた三角形の名前とその理由を考える」の活用問題では、正答率が5.3%と市の平均と同等であるが、とても低い。</p>	<p>・円や三角形については授業で扱う時期も限られているのでプリントやドリルを活用して復習する機会を意図的に設けるとともに、適に応用問題や活用問題を出題し、数学的な思考力を育むようにする。</p> <p>・活用問題についてはその解答の方法に慣れるように、単元の終わりなどに計画的に組み入れていく必要がある。</p>
数量関係	<p>○平均正答率は71.5%で市の平均正答率を8ポイント以上大きく上回っている。</p> <p>○設問別にみると「未知の数量を口として、数量関係を表した線分図を選ぶ」では正答率が94.7%、「棒グラフの1目盛りのおよそ大きさを読み取る」では正答率が80.7%と市の平均を10ポイント近く上回る高い正答率であった。</p> <p>●「表や棒グラフからわかる正しい内容を選ぶ」の正答率が市の平均と同等であるが、64.9%とやや低い。</p>	<p>・既習内容をしっかり身に付けられるよう、定期的に復習の時間を取り、更なる定着を図る。</p> <p>・資料の読み取りなどは算数の時間だけでなく、社会や総合的な学習時間等、他教科とも連携し、いろいろなグラフから考えられることを読み取る習慣をつけ、それらを意見交換する機会を設けるなどして、さらなる定着を図る。</p>

# 宇都宮市立 昭和小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	77.4	68.6	66.9
	生命・地球	65.8	52.8	52.4
観点	科学的な思考・表現	58.5	47.4	46.2
	観察・実験の技能	69.8	50.8	51.1
	自然事象についての知識・理解	84.8	76.1	74.8



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○平均正答率は、77.4%で、市の平均より10ポイント以上上回っている。</p> <p>○全ての項目で市の平均を上回っており、特に「豆電球のつき方から箱の中の回路を推測する」の活用問題では、正答率は68.4%だが、市の平均正答率より20ポイント以上高い。また、ほとんど項目で市の平均正答率より5～15ポイント高く、定着している内容が多い。</p> <p>●「回路をつくる際の導線の安全なつなぎ方が分かる」では、市の平均正答率を15ポイント以上上回っているが、正答率が47.4%と定着が十分ではない。</p>	<p>・実験結果から導かれた基礎的な知識について十分理解されていない単元については、教科書の単元末のまとめを確認したり、問題に答えたりすることを通して、基礎的な知識の定着を図る。</p> <p>・理科で学習したことと身近な事象を関連付けたり、話題にしたりし、日常の中でそれらの知識を生かしていけるようにはたらきかける。</p> <p>・学習した内容を生かした装置やおもちゃを作ったり、作ったものの仕掛けを紹介したりという活動を学習の最後に入れることで、楽しみながら学習内容を定着させるなど活動を工夫する。</p>
生命・地球	<p>○平均正答率は、65.8%で、市の平均より13ポイント大きく上回っている。</p> <p>○全ての問題で、市の平均正答率を上回っており、20ポイント以上上回っている問題も4問ある。特に、「植物の成長する順序がわかる」は市の平均正答率よりも24ポイント、「方位磁針の適切な操作方法が分かる」は31ポイント上回っており、知識的な内容の定着が高いことが分かる。</p> <p>●「観察記録をもとに昆虫を選択し、その理由を説明する」の理解については、市の平均正答率を若干上回っているものの、正答率が29.8%と低かった。</p>	<p>・実験結果から導かれた基礎的な知識について十分理解されていない単元については、教科書の単元末のまとめを確認したり、問題に答えたりすることを通して、基礎的な知識の定着を図る。</p> <p>・理科で学習したことと身近な事象を関連付けたり、話題にしたりし、日常の中でそれらの知識を生かしていけるようにはたらきかける。</p> <p>・記述式の活用問題の正答率が低かったので、授業の中でも考察や考えたことを自分の言葉で書く機会を増やし、知識だけでなくそれらを活用し、思考力や表現力を身に付けさせる。</p>

## 宇都宮市立 昭和小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

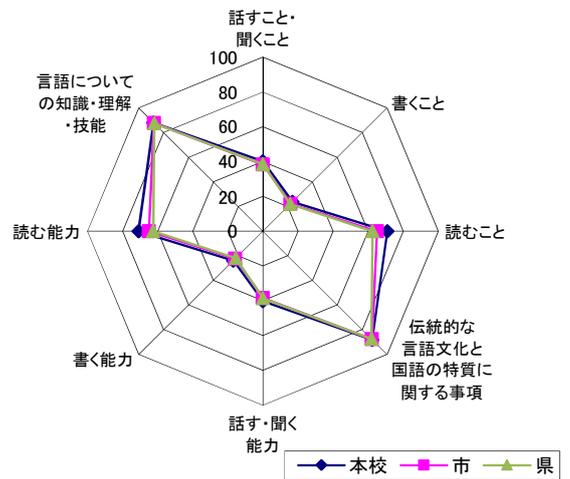
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「家の人と学校のできごとについて話している。」の肯定的回答が約90%、「家の人と学習について話をしている。」の肯定的回答が約88%と高く、「学習について話している。」は市・県平均共に12・15ポイントずつ上回っている。家庭でコミュニケーションを密にとっていることがうかがえる。今後も家庭と連携して、児童のより良い成長を目指したい。
- 「毎日、朝食を食べる。」「毎日、同じくらいの時間に寝ている。」「早寝、早起きを心がけている。」「家での決まりや約束を守っている。」などの肯定的回答が86%～96.5%と高い数値を示している。家庭の意識が高く、一人一人が正しい生活習慣が身に付いていることがうかがえる。今後も家庭と連携し、正しい生活習慣の定着に努めていく。
- 「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の肯定的回答が98.2%、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある。」の肯定的回答が96.5%と高い結果になり、どちらの質問項目も市・県平均共に10ポイント以上上回っている。児童が興味・関心をもって楽しみながら前向きに学習に向かっていることがうかがえる。
- 「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」の肯定的回答は96.5%、「将来の夢や目標をもっている。」の肯定的回答が91.2%と高く、学習とこれからの自分の将来を関連付けて考えている児童が多い。
- 「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」の肯定的回答が56.1%と低く、本やインターネットを正しく使って学習を進められるよう、情報教育を通して学習スキルを身に付けさせたい。
- 「学校の役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる。」の肯定的回答は91.2%と高く、進んで仕事を行っている児童が多いことがうかがえる。
- 役割や仕事を責任を持って取り組んではいるが、「自分はクラスの人役に立っていると思う。」では、肯定的回答が66.7%と少し低い結果となった。市・県の平均は約9ポイント上回ってはいるが、学級の所属意識を高めるため、行事や学級経営において役割を持たせ、高めていけるように支援したい。
- 「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」の肯定的回答が61.4%と、市・県平均と同等であるが、少し高い結果となった。また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の肯定的回答は64.9%と市・県平均を10ポイント以上上回っているが、60%台と低い。この2つの項目については、関連性があると思われる。授業を通して、自分の考えや意見を明確に書けるように支援し、自信をもって発表できる児童を育てていきたい。
- 「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」の肯定的回答が68.4%で、県平均よりも1.1ポイント低い結果となった。市・県平均共に60%台と低いが、これからも振り返り活動を積極的に行い、児童に意識的に取り組ませ、次の学習へつなげるように支援していきたい
- その他の社会的実践力、学級力、教科についてなどに関連する項目では、肯定的回答割合が高い。

# 宇都宮市立 昭和小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	40.2	38.3	38.5
	書くこと	23.9	22.3	21.9
	読むこと	70.9	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	88.2	87.8	87.5
観点	話す・聞く能力	40.2	38.3	38.5
	書く能力	23.9	22.3	21.9
	読む能力	70.9	65.0	62.5
	言語についての知識・理解・技能	88.2	87.8	87.5



## ★指導の工夫と改善

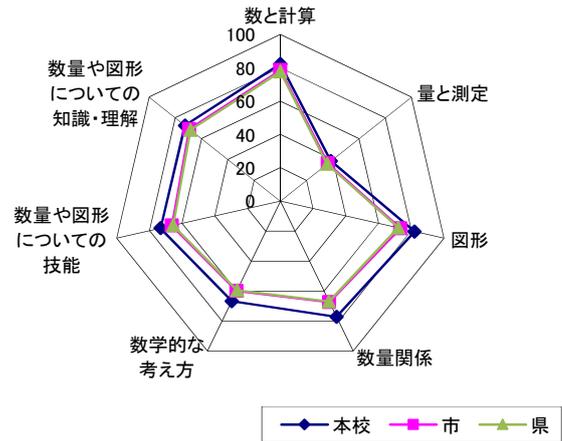
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○平均正答率は、40.2%で県や市の平均をわずかに上回っている。</p> <p>○設問別に見ると、「考えの根拠を示しながら筋道を立てて話す」が、市や県の平均を5ポイント以上上回っている。</p> <p>●「考えの共通点や相違点を整理しながら聞く」については、市の平均を4.5ポイント下回っている。</p>	<p>・相手の話を集中して聞こうとする習慣をつけ、話し手の意図や気持ちを聞き取る力の定着を図るとともに、自分の伝えたいことを、正しく発信できる力を高めさせる。</p> <p>・授業中はもちろんのこと、その他の様々な場で、自分の考えと比べながら聞いたり、共通点を見つけながら聞いたりする経験を増やす。</p>
書くこと	<p>○平均正答率は、23.9%で、県や市の平均をわずかに上回っている。</p> <p>○設問別に見ると、「文章構成を意識し、内容を工夫してリーフレットを作る」が市の平均を6.9ポイント上回っており、「メモの内容に新しい情報を加え、リーフレットに入れる」記述式の設問では、市の平均をわずかに上回っている。</p> <p>●「メモや友達の意見を基に、リーフレットのまとめを書く」日おいては、3.8ポイント下回っている。</p>	<p>・出来事や自分の思いを自由に書くということだけでなく、目的に応じて必要な条件を満たしながら文章を書く機会を設定していく。</p> <p>・「はじめ」「なか」「おわり」の文章構成のパターンの理解を深めさせ、構成を整えて書く習慣を身に付けさせる。</p> <p>・感想などを書く際にも、字数を設定したり、制限時間を設定したりするなどして、「書くこと」への良い意味での緊張感や課題意識をもたせるように工夫する。</p>
読むこと	<p>○平均正答率は、70.9%で、県の平均を8.4ポイント、市の平均を5.9ポイント上回っている。</p> <p>○説明文の読み取りでは、すべての設問において市や県の平均を上回っており、「中心となる語や文に注目して小見出しを付ける」は正答率が97.4%と高く、県の平均を10.5ポイント、市の平均8.5ポイントを上回っており、ほぼ定着していると言える。</p> <p>○文学的文章の内容の理解については、「文章を読んで考え、まとめたことを発表し合う」設問において、県の平均を21.0ポイント、市の平均を18.3ポイント上回っている。</p> <p>●「文章の要点や細かい点に注意して読み、言葉を引用する」設問では、正答率が46.2%と低く、市の平均を9.2ポイント下回っている。</p>	<p>・説明文においては、叙述を正確に読み取るための指導として、語句の意味を調べたり、段落の構成をとらえたりさせる。</p> <p>・指示語や接続語など読解のキーワードに気付いて読むことを通して、要旨をとらえる力を高めていく。</p> <p>・読書量を増やしていけるように、ブックトークや読み聞かせなどを通して、読書を啓発していきたい。</p> <p>・日本語の言葉のリズムを感じ取ったり、韻文に親しませたりする目的で、古典の一節や詩歌などを声に出して読ませる機会を増やしていく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○平均正答率は、88.2%であり、県や市の平均正答率とほぼ同じである。</p> <p>○設問別に見ると、訓読みの漢字の書き取りは県や市の正答率をそれぞれ5ポイント以上上回っており、漢字の読み取りでは、音読みの熟語は正答率が100%であった。</p> <p>○接続語の役割についても正答率が100%と高かった。</p> <p>●慣用句のの使い方についての正答率が74.4%で、県の平均を5.5ポイント、市の平均を7.3ポイント下回った。</p>	<p>・4年生までに学習した漢字の復習に力を入れ、確実な定着を図る。また、新出漢字を授業の中で取り上げる際に、同音や同訓の既習の漢字や形の似た感じを提示したり部首について触れたりして復習の機会を増やしていく。</p> <p>・慣用句については、その意味や用法について繰り返し学習する機会を設けていきたい。また、慣用句を使った短文作りなどにも、折に触れて取り組ませたい。</p>

# 宇都宮市立 昭和小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	82.3	78.6	77.7
	量と測定	38.5	36.3	35.7
	図形	82.1	73.3	72.1
	数量関係	77.2	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	66.7	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	73.2	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	72.6	69.4	68.5



## ★指導の工夫と改善

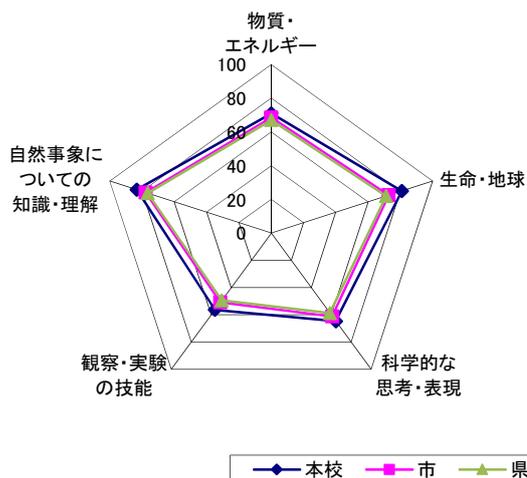
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○平均正答率は82.3%で市の平均を3.5%以上、上回っている。</p> <p>○3位数÷2位数(商に空位、余りあり)の問題と小数(小数第2位)×1位数の計算の問題は市の平均を大きく上回っている。</p> <p>●小数(小数第1位)÷2位数の計算(わり切れるまで)の問題では僅かに、四捨五入して表された2ケタの概数になる数を選ぶ問題ではやや正答率が市の平均よりも低い。</p>	<p>・全体としては学習内容がよく身につけているといえる結果ではあるが、さらなる習熟を目指し、プリントやドリル等を活用して繰り返し復習することにより定着を図る。</p>
量と測定	<p>○平均正答率は38.5%で市の平均を2%ほど上回っている。</p> <p>○設問別に見ると「1㎡の面積をcm<sup>2</sup>の単位で表す」は市の平均を大きく10ポイント以上も上回っている。</p> <p>●「式に合った複合図形の面積を求める方法を説明する」問題の正答率が県や市の平均を下回っていた。</p>	<p>・面積の単位(m<sup>2</sup>, cm<sup>2</sup>, a, ha)の関係を繰り返し復習させ、身近なものの面積や広さの理解のよりいっそうの定着を図る。</p> <p>・「複合図形の面積を求める」問題を、プリントやドリルを活用して復習する機会を意図的に設け、習熟を図る。</p>
図形	<p>○平均正答率は82.1%で市の平均を9%近く上回っている。</p> <p>○特に「立方体の展開図から、ある面と平行な面を選ぶ」の正答率は97.4%と高い。</p> <p>●「与えられた2辺の続きを書いて平行四辺形を完成する」の正答率は市の平均を上回ってはいないが66.7%なのでまだ十分定着しているとはいえない。</p>	<p>・直方体や立方体の辺や面の垂直、平行の位置関係については、今後も復習する機会を多く与え定着を図る。</p> <p>・平行四辺形やひし形、台形等の作図の演習を繰り返し、技能の定着を図ることによって色々な四角形の学習の習熟をさせたい。</p>
数量関係	<p>○平均正答率は72.6%で市の平均を3%以上、上回っている。</p> <p>○どの問題でも県や市の平均を上回っており、「図や表から変わり方を考え、表にあてはまる数を求める」の正答率は97.4%と特に高い。</p>	<p>・既習内容をしっかり身に付けられるよう、定期的に復習の時間を取り、更なる定着を図る。</p> <p>・ともなって変わる2つの数量の関係については、プリント等で復習する機会を意図的に設け、より確実な理解につなげたい。</p>

# 宇都宮市立 昭和小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	71.0	68.6	67.0
	生命・地球	80.9	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	64.7	61.2	58.8
	観察・実験の技能	56.4	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	83.3	77.7	76.6



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○平均正答率は71.0%で、市や県の平均を上回っている。</p> <p>○「結果から、金属の棒の温まり方について説明する」「水から氷になるとき体積が大きくなるのがわかる」問題では、記述式で答える設問であったが、正答率が市や県より10ポイント以上上回っていた。</p> <p>○「物の重さ」についての設問では、正答率が100%で、市や県の平均を10ポイント以上上回っており、学習内容が十分に定着しているといえる。</p> <p>●「湯気と水中から出てくる泡の正体がわかる」設問においては、正答率が低く、市や県の平均を12ポイント下回っている。</p>	<p>・水を熱したときの変化について、図書資料や映像資料などを用いて復習させ、理解の定着を図る。</p> <p>・実験や観察の結果と考察を分けて考えさせ、自分の言葉で表現させる学習や、予想やその理由について文章で表現させる学習を重要視し、単元に応じて重点的に指導する。</p> <p>・学習した内容を日常生活の中で具体的に考えたりさせたりして、事象の仕組みや関係を考えていく力を育成していく。</p> <p>・授業の初めに、学習問題をはっきりとわかるように提示し、毎回の学習や実験の目的をよく把握させて進めることにより、受け身ではなく児童自らが主体的に課題解決に向かえるようにさせる。また、予想を立てさせそれを検証していく過程を大切に、児童の興味関心が持続するような授業展開や教材を工夫していく。</p>
生命・地球	<p>○平均正答率は80.9%で、市や県の平均を8ポイント以上、上回っており、すべての内容において、市や県の平均を上回っている。</p> <p>○「大地と地面の様子」では、正答率が89.7%と高く、市や県より10ポイント以上、上回っている。</p> <p>○「月と星」に関しては、正答率が72.4%であるが、市や県の正答率を12ポイント以上上回っていた。</p>	<p>・身の回りの自然や事象に気付き、疑問をもったり追及意欲を抱いたりしていく機会となるような、教室環境の工夫や話題提示をしていきたい。</p> <p>・昼間の観測が難しい天体の学習や、人体の内部の組織などの学習については、デジタル教科書やDVDなどの映像を活用して理解を深められるよう、教材を工夫していく。</p> <p>・実験・観察から考えたことを表現する力や科学的現象を説明する力をつけていけるように、授業においても自然や生活の中の事象について、自分で考えたり文章で表現したりする時間を取り入れ、思考力を育成する。</p>

## 宇都宮市立 昭和小学校 第5学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家の人と学校のでできごとについて話をしている」の肯定的回答が95%と高く、「家の人と将来のことについて話すことがある」「自分は家族の大切な一員だと思う」の肯定的回答がともに県や市の平均を5%近く上回っている。このことから、家庭で十分にコミュニケーションをとることができていることがうかがえる。家庭との連携をより深め、学校と家庭の両面から児童の良いところをさらに伸ばしていきたい。

○「毎日、朝食を食べている」の肯定的回答は100%である。「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」は87.2%、「早寝早起きを心がけている」は89.7%、「家でのみまりや約束を守っている」が97.4%と、いずれの肯定的回答も高く、基本的な生活習慣が一人一人の身につけていることがうかがえる。その定着に努めたい。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「勉強していて『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」への回答はともに94.9%であり、学びへの意欲の高さを感じられる。この意欲を大切に、より伸ばせるよう授業展開等に工夫を試みたい。

●「学校の宿題は、自分のためになっている」への肯定的回答97.4%に対し、「学校の宿題は、やりたくない内容だ」への肯定的回答は71.8%である。県や市の平均を超えてはいるものの差がある。宿題の内容やメニューの精選の必要がある。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定的回答は100%、「将来の夢や目標をもっている」の肯定的回答が97.4%と高く、学習と自分の将来を関連付けて考えている児童が多い。

○「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の肯定的回答は97.4%と高く、進んで仕事を行っている児童が多いことがうかがえる。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」への肯定的回答は56.4%で県や市の平均を下回っているが「自分には、よいところがあると思う」への肯定的回答は89.7%であり相互にズレが感じられる。行事や学級内で役割をもたせ、学級の所属意識を高めていけるよう支援したい。

●「自分は勉強がよくできる方だと思う」への肯定的回答は61.5%で、市や県の平均よりも高いものの、学習への意欲の高さとの間に差がある。意欲が実力に結びついていないと感じている児童が多いようである。学習意欲を適切に実力に反映させることができるよう、個々の課題に対し密な支援を続けたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の肯定的回答は66.7%と、市・県平均を上回る結果となったが「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定的回答は43.6%と極端に低く、県や市の平均を6~7%下回る結果となった。各教科において、書く力や話す力を伸ばすために、文の型や使用する言葉を示し、ほめながら書くことや話すことへの抵抗感を減らし、自信につなげていきたい。

○「家で学校の宿題をしている」「将来のために大切だと思う教科」では「国語」「算数」が肯定的回答100%であった。維持できるよう努めたい。

## 宇都宮市立 昭和小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の定着	学力アップ月間を設け、家庭学習の記録をつけることで自分の家庭学習の内容や時間を見直したり、学年便りや学校便りで家庭にも啓発したりし、学校と家庭と連携して、家庭学習のさらなる定着を図った。	家庭学習力が4、5年共に市の平均よりも上回っており、家庭学習の定着が見られた。特に、「家で学校の宿題をしている」では、肯定群回答割合が96%以上とほとんどの児童が肯定的に回答していた。また、「家で自分で計画を立てて勉強している」でも、肯定解答率が74%以上と計画的に家庭学習をする習慣も身に付けてきている。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
自分の考えを表現する力の向上 書く力の向上	目的に合った表現方法や表現内容を身に付けさせる活動 書く力を高めさせる工夫	テーマを設けた作文や日記指導を行ったり、語彙を増やすための活動を取り入れたりする。また、書く力を伸ばすための取り組みを各担任が工夫し、情報交換してより良い取り組みを研究していく。